

(小規模企業景気動向調査)

三重の景況

No.66

(平成27年1月～6月期)

三重県商工会議所連合会

桑名	商	工	会	議	所
四日市	商	工	会	議	所
鈴鹿	商	工	会	議	所
亀山	商	工	会	議	所
津	商	工	会	議	所
松阪	商	工	会	議	所
伊勢	商	工	会	議	所
鳥羽	商	工	会	議	所
上野	商	工	会	議	所
名張	商	工	会	議	所
尾鷲	商	工	会	議	所
熊野	商	工	会	議	所

はじめに（総括）

三重県商工会議所連合会では、県下 12 商工会議所合同で、地域の小規模企業を対象とした景況調査を年 2 回実施しています。このたび平成 27 年度上期の調査結果がまとまりましたのでご報告します。

三重県下の景況を示す指標である「現状」の D I 値は、 $\Delta 31.0$ と平成 26 年度下期に比べ 4.0 ポイント低下しており、前期に引き続き今期も悪化傾向となっております。

業種別の「現状」D I 値は、卸売業 $\Delta 40.8$ （前期 $\Delta 43.2$ ）、小売業 $\Delta 49.2$ （前期 $\Delta 50.8$ ）、サービス業 $\Delta 29.3$ （前期 $\Delta 34.1$ ）、交通運輸業 $\Delta 22.8$ （前期 $\Delta 31.4$ ）が前期より改善しましたが、製造業 $\Delta 27.0$ （前期 $\Delta 19.4$ ）、建設業 $\Delta 20.7$ （前期 $\Delta 8.1$ ）、飲食業 $\Delta 32.4$ （前期 $\Delta 19.6$ ）、その他の業種 $\Delta 27.4$ （前期 $\Delta 20.2$ ）で悪化しました。

地区別の D I 値は、北勢地区 $\Delta 23.5$ （前期 $\Delta 23.6$ ）、中勢地区 $\Delta 36.4$ （前期 $\Delta 22.6$ ）、南勢地区 $\Delta 36.5$ （前期 $\Delta 35.1$ ）、伊賀地区 $\Delta 33.2$ （前期 $\Delta 27.6$ ）、東紀州地区 $\Delta 51.8$ （前期 $\Delta 44.5$ ）となりました。

今後の見通しでは $\Delta 29.3$ （前回 $\Delta 32.1$ ）となり、2.8 ポイントと若干の改善となっております。地区別については、中勢地区が 2.2 ポイント悪化の見通しでその他の地区では全て改善の見通しとなっております。業種別では、卸売業、交通運輸業、その他の業種を除く業種で改善の見通しとなっております。

「売上状況」「利益状況」「販売条件」「仕入条件」の項目について、前期より悪化傾向となっておりますが、「仕入条件」のみ 3.9 ポイントの改善となりました。地区別では、北勢地区のみ「売上状況」の項目以外は改善しました。

景気の方角性を示す項目である設備投資は、「行った」とした割合は、全体で 14%（前期 16.5%）と 2.5% 減少、「予定している」とした割合は、全体で 12.9%（前期 11.9%）と 1% 増加しました。業種別では、交通運輸業が 25% で最も多く設備投資を行っており、卸売業が 4.3% と最も低い数値となりました。また、地区別では中勢地区が実績 15.9% と最も高く、予定では北勢地区が 13.8% と最も高くなっています。

「借入の状況（難易度）」の D I 値は、全体で $\Delta 1.4$ （前期 3.4）と 4.8 ポイント悪化し、業種別では小売業を除く全ての業種で悪化、地区別では南勢地区と東紀州地区以外の地区で悪化しました。

また、「借入を予定している」と回答した企業の割合は 14.5%（前期 14.5%）、「使途予定」については『運転資金』の割合は 70.1%（前期 68.7%）、『設備資金』の割合は 26.7%（前期 29.1%）となりました。

以上が本調査結果の概要です。本調査報告書が皆様の今後の企業経営の参考や小規模企業に対する皆様の更なる理解に資することになれば幸いに存じます。

最後に本調査の実施、作成にあたりましては、調査対象企業をはじめ関係各位の皆様にご協力を賜りましたことを厚く御礼申し上げます。

平成 27 年 8 月

三重県商工会議所連合会

も く じ

(調 査 内 容)

・ 調査要領	1
1. 現状と今後の見通し	4
現況D I 値の推移	6
2. 最近の売上状況	8
3. 今後の売上見通し	8
4. 利益状況	9
5. 販売条件	9
6. 仕入条件	10
7. 設備投資	10
8. 資金繰り状況と今後の見通し	11
9. 借入状況	12
借入難易度D I 値の推移	13
10. 借入予定	14
11. 借入希望先	14
12. 借入金の使途予定	15
13. 経営上の問題点	15
・ 県下商工会議所地域における景況	17
・ 調査票 (写し)	

「三重の景況」調査要領

1. 調査目的

当調査は、三重県商工会議所連合会と県下12商工会議所〔*1〕が、小規模企業〔*2〕の動向を合同で調査することにより、県内小規模企業の景況把握を、地区別〔*3〕に行い、合わせて各会議所地域の景況を調査することにより、各商工会議所の事業活動の参考とすることを目的とする。

〔*1〕 県下商工会議所

桑名商工会議所	中小企業相談所
四日市商工会議所	中小企業相談所
鈴鹿商工会議所	中小企業相談所
亀山商工会議所	中小企業相談所
津商工会議所	中小企業相談所
松阪商工会議所	中小企業相談所
伊勢商工会議所	中小企業相談所
鳥羽商工会議所	中小企業相談所
上野商工会議所	中小企業相談所
名張商工会議所	中小企業相談所
尾鷲商工会議所	中小企業相談所
熊野商工会議所	中小企業相談所

〔*2〕 小規模企業（中小企業基本法による）

卸売・小売・サービス業は従業員5人以下、製造・建設・その他の業種については20人以下。（会社の役員・家族従業員・パートを除く）

〔*3〕 県内各地区は下記のとおり

北勢地区……桑名・四日市・鈴鹿・亀山
中勢地区……津・松阪
南勢地区……伊勢・鳥羽
伊賀地区……上野・名張
東紀州地区…尾鷲・熊野

2. 調査対象・回答状況

県下12議所の会員企業中、任意抽出した小規模企業9,217事業所を対象とした。回答状況は、回答率25.5%、回答企業2,355事業所であった。

3. 調査方法

FAXまたは郵送方法によるアンケート方式

4. 調査期間

平成27年7月1日～7月10日

※当調査は、“1月～6月期”と“7月～12月期”の年2回、調査を実施している。

5. 集計方法

外部委託を行い、一括コンピュータ集計を行った。

6. 調査結果の取りまとめ

調査結果の取りまとめについては、津・松阪・上野・名張の4商工会議所が担当した。なお、各商工会議所地域の景況は当該商工会議所が担当した。

D I 値（ディフュージョン・インデックス）の見方について

D I とは景気動向を示す指標で、調査時点における企業家の経済行動（強気や弱気など）を知るものであり、景気動向を客観的に判断する資料として幅広く使用されているもので、特に言及のない限り、「増加」「好転」したとする企業割合から、「減少」「悪化」したとする企業割合を差し引いた値である。

（注）図表中の数値表示について

図表中の数値については小数点以下第2桁で四捨五入をしているため、合計が100.0にならない場合があります。

単位:企業 ():% 上:業種別構成率 下:地区別構成率

業種	地区	北勢				中勢			南勢			伊賀		東紀州			計			
		桑名	四日市	鈴鹿	亀山	津	松阪		伊勢	鳥羽		上野	名張		尾鷲	熊野				
製造業	食料	41	11	14	12	4	25	7	18	24	10	14	11	6	5	16	9	7	117	
	せんい	7	1	3	2	1	4	1	3	1	1	0	5	5	0	1	1	0	18	
	機械	63	33	14	13	3	16	6	10	14	6	8	7	4	3	2	2	0	102	
	金属製品	73	30	12	27	4	14	5	9	11	6	5	3	1	2	4	3	1	105	
	木材	19	10	3	1	5	16	0	16	8	6	2	1	1	0	11	9	2	55	
	化学	12	4	5	2	1	3	2	1	1	0	1	3	1	2	0	0	0	19	
	窯業	10	2	4	4	0	4	1	3	0	0	0	0	0	0	1	0	1	15	
	印刷出版	10	4	1	3	2	14	8	6	4	4	0	3	0	3	2	1	1	33	
	その他	49	18	9	19	3	19	7	12	12	6	6	5	0	5	8	6	2	93	
	計	284 (24.7) (51.0)	113	65	83	23	115 (21.5) (20.6)	37	78	75 (23.7) (13.5)	39	36	38 (22.9) (6.8)	18	20	45 (24.3) (8.1)	31	14	557 (23.7) (100.0)	
非製造業	卸売業	食料	16	9	5	1	1	7	3	4	10	6	4	3	0	3	8	7	1	44
		せんい	2	0	1	1	0	1	0	1	4	4	0	0	0	0	1	0	1	8
		その他	44	20	16	7	1	21	6	15	13	8	5	9	4	5	1	0	1	88
		(小計)	62	29	22	9	2	29	9	20	27	18	9	12	4	8	10	7	3	140
	小売業	せんい	22	11	4	4	3	22	6	16	18	11	7	5	3	2	14	8	6	81
		食料	42	15	6	16	5	19	6	13	14	9	5	10	3	7	10	5	5	95
		日用品	9	6	0	2	1	3	0	3	2	2	0	2	1	1	3	2	1	19
		電気製品	18	5	0	9	4	9	2	7	6	6	0	5	2	3	6	4	2	44
		その他	89	38	18	30	3	52	6	46	32	19	13	14	8	6	18	12	6	205
		(小計)	180	75	28	61	16	105	20	85	72	47	25	36	17	19	51	31	20	444
	サービス業	美容・理容	32	11	4	11	6	7	3	4	5	2	3	3	1	2	6	4	2	53
		ホテル旅館	3	1	0	2	0	3	2	1	21	1	20	0	0	0	4	1	3	31
		自動車整備	31	15	4	10	2	21	5	16	10	8	2	6	1	5	2	2	0	70
		不動産	36	16	16	3	1	10	5	5	5	5	0	5	0	5	0	0	0	56
		その他	98	43	25	21	9	47	22	25	12	8	4	12	1	11	7	2	5	176
		(小計)	200	86	49	47	18	88	37	51	53	24	29	26	3	23	19	9	10	386
	建設業	土木工事	67	15	15	31	6	23	10	13	9	4	5	10	2	8	8	7	1	117
		建築工事	118	33	31	47	7	52	26	26	25	16	9	16	7	9	13	10	3	224
		その他	120	37	38	40	5	51	28	23	20	18	2	7	2	5	8	6	2	206
		(小計)	305	85	84	118	18	126	64	62	54	38	16	33	11	22	29	23	6	547
	飲食業	66	16	16	27	7	28	3	25	25	8	17	7	3	4	13	10	3	139	
	交通運輸業	16	4	4	2	6	22	5	17	2	1	1	0	0	0	4	4	0	44	
	計	829 (72.0) (48.8)	295	203	264	67	398 (74.3) (23.4)	138	260	233 (73.5) (13.7)	136	97	114 (68.7) (6.7)	38	76	126 (68.1) (7.4)	84	42	1,700 (72.2) (100.0)	
	その他	38 (3.3) (38.8)	3	21	3	11	23 (4.3) (23.5)	18	5	9 (2.8) (9.2)	6	3	14 (8.4) (14.3)	5	9	14 (7.6) (14.3)	11	3	98 (4.2) (100.2)	
	合計	1,151 (100.0) (48.9)	411	289	350	101	536 (100.0) (22.8)	193	343	317 (100.0) (13.5)	181	136	166 (100.0) (7.0)	61	105	185 (100.0) (7.9)	126	59	2,355 (100.0) (100.2)	

1. 現状と今後の見通し

a) 現状（図－1・2・3参照）

全回答企業 2,355 事業所中、「良い・やや良い」が 16.0%、「変わらない」が 36.8%、「悪い・やや悪い」が 47.0%で、D I 値は△31.0（前回△27.0）となり前回より 4.0 ポイント悪化している。

業種別の D I 値では、小売業△49.2、卸売業△40.8、飲食業△32.4、サービス業△29.3、その他△27.4、製造業△27.0、交通運輸業△22.8、建設業△20.7 の順となっている。

地区別の D I 値では、東紀州地区△51.8、南勢地区△36.5、中勢地区△36.4、伊賀地区△33.2、北勢地区△23.5 であった。

図－1 現状について（業種別）

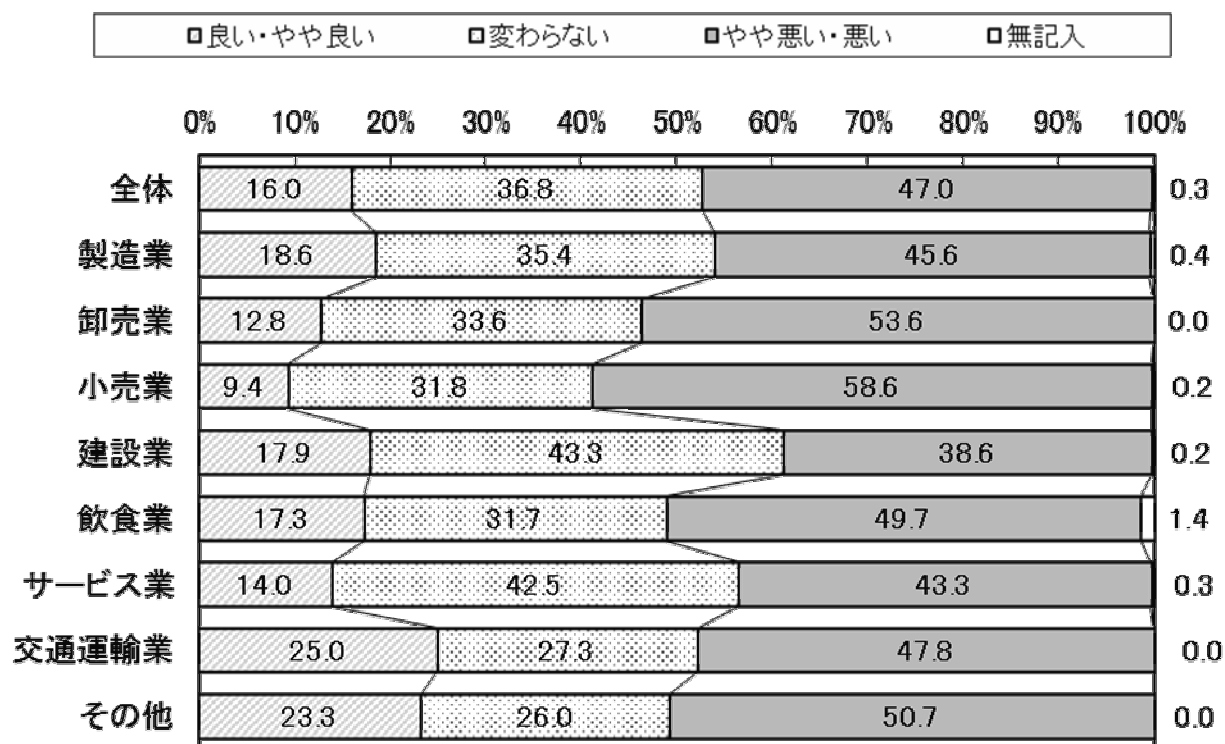


図-2 現状について（全体・地区別）

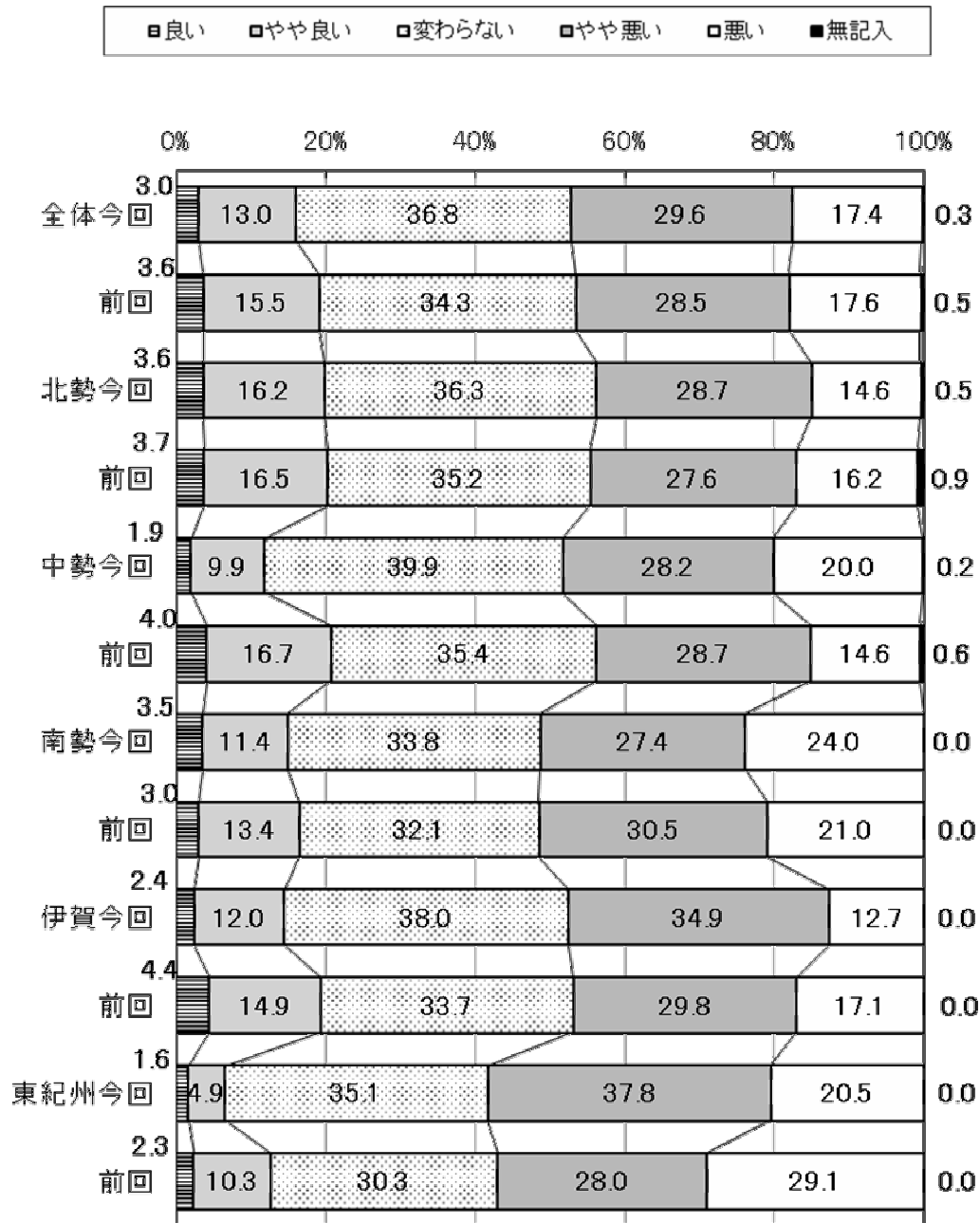
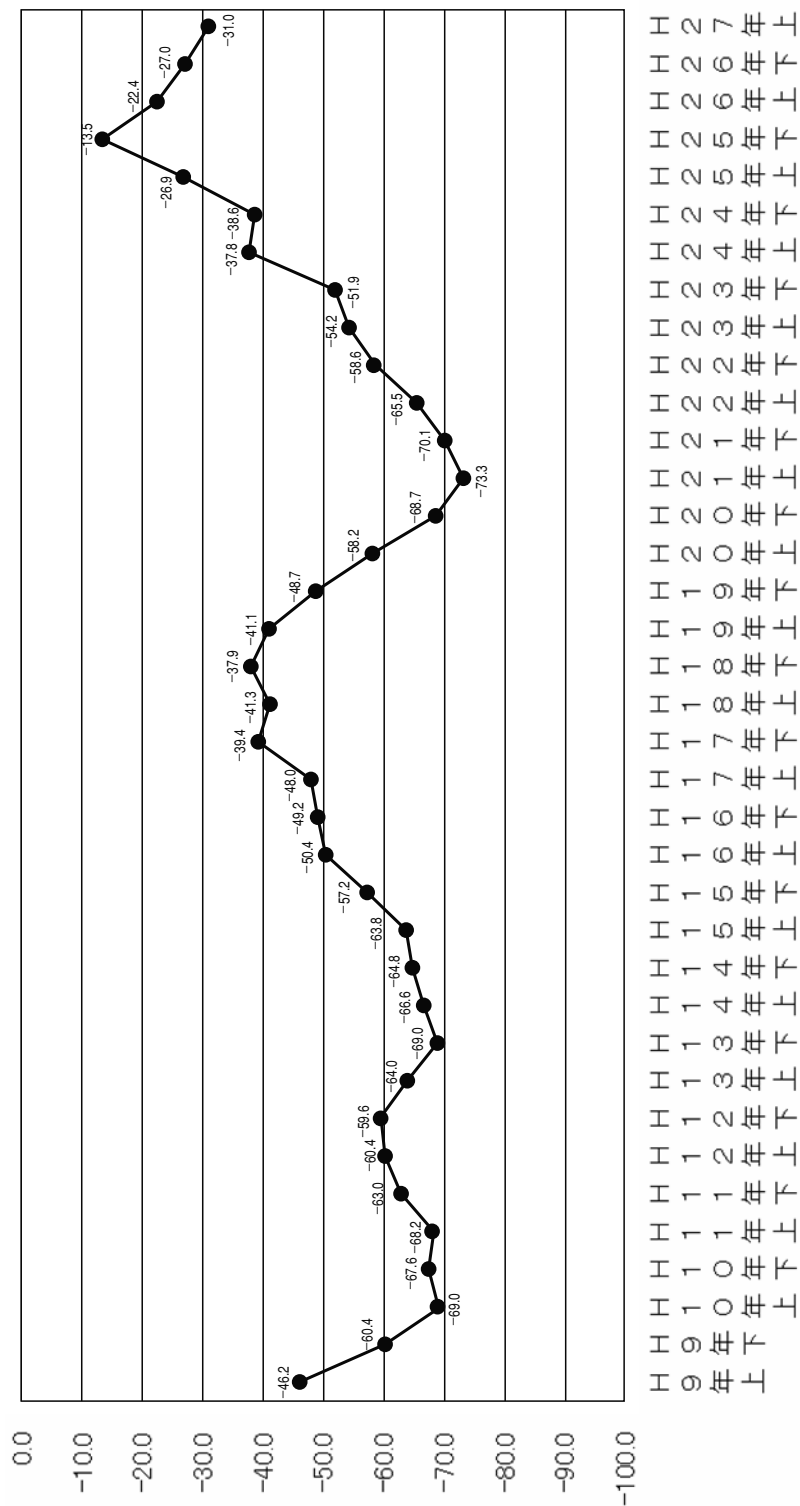


図-3 現況D I 値の推移



注) H17 下期分までの値は BSI 値を 2 倍した数値で表示

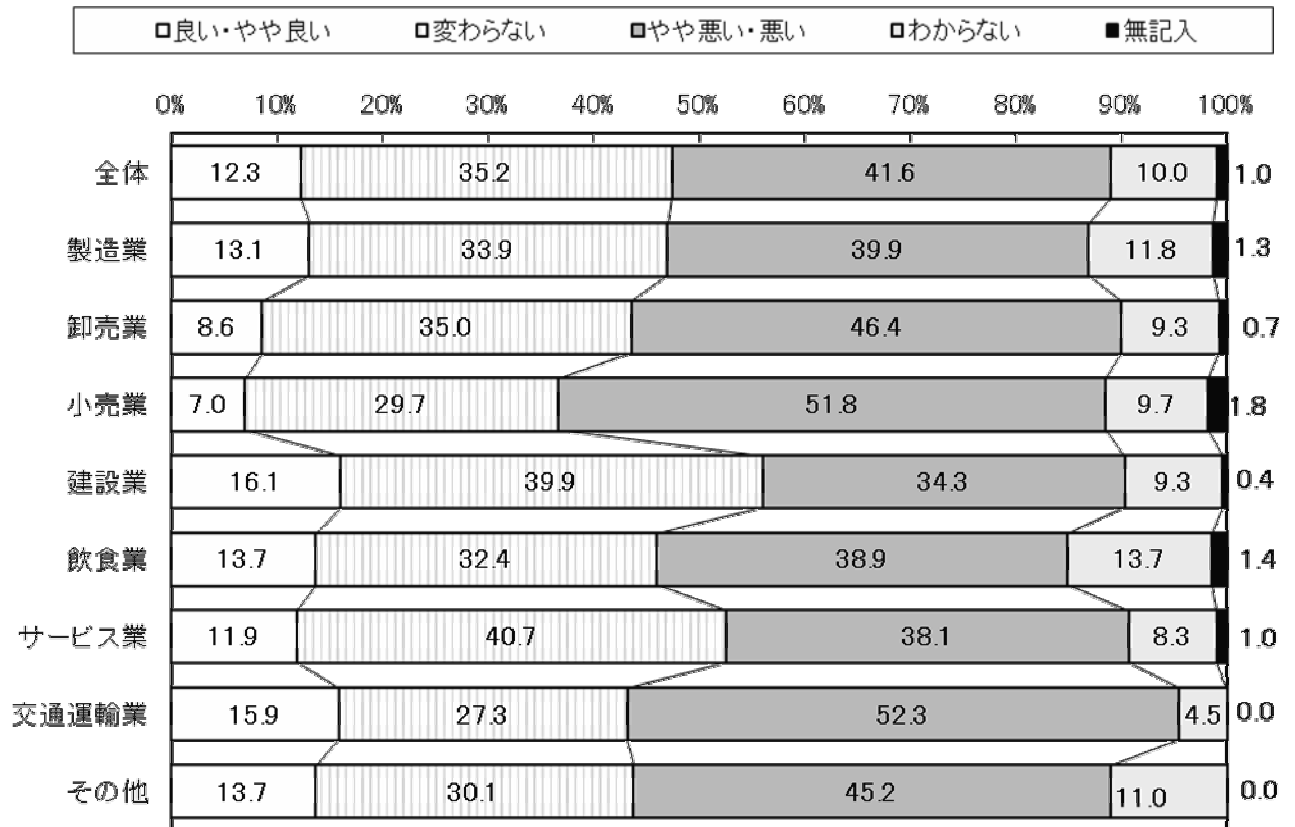
b) 見通し（図－4参照）

全体の見通しでは、「良い・やや良い」が 12.3%、「悪い・やや悪い」は 41.6%で、D I 値は△29.3（前回△32.1）となり、2.8 ポイント改善された。

業種別では、D I 値で小売業△44.8、卸売業△37.8、交通運輸業△36.4、その他の業種△31.5、製造業△26.8、サービス業△26.2、飲食業△25.2、建設業△18.2 の順であった。

地区別のD I 値では、東紀州地区△41.6、伊賀地区△34.4、南勢地区△30.5、中勢地区△28.9、北勢地区△26.4 であった。

図－4 今後の見通しについて（業種別）



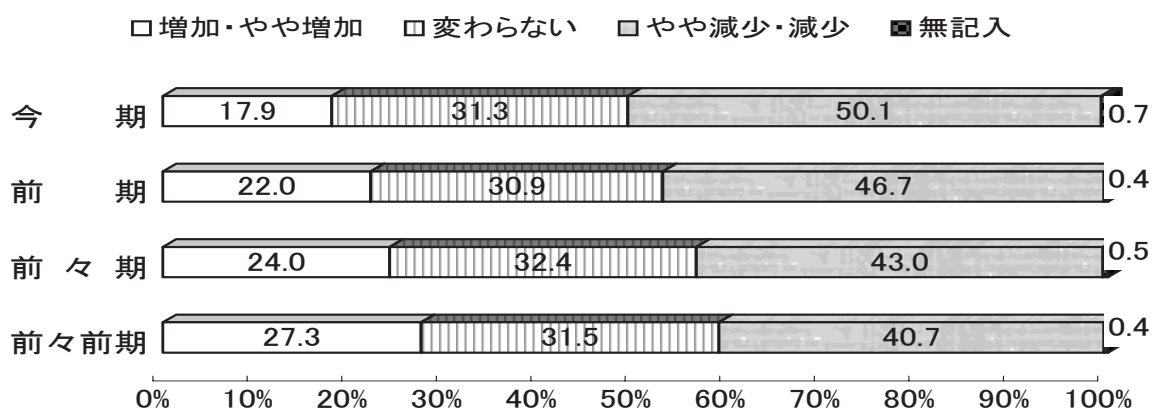
2. 最近の売上状況（図－5参照）

全体では、「増加・やや増加」が17.9%（前回22.0%）、「やや減少・減少」が50.1%（前回46.7%）で、D I 値は△32.2（前回△24.7）となり、7.5ポイント悪化した。

業種別では、卸売業（3.8ポイント）、サービス業（3.3ポイント）、交通運輸業（2.6ポイント）で改善が見られるが、それ以外の業種では悪化している。特に建設業（17.5ポイント）、飲食業（15.9ポイント）、製造業（9.7ポイント）とそれぞれ悪化している。

地区別では、すべての地区で悪化が見られ、特に中勢地区で△36.3（前回△18.8）と17.5ポイントの悪化となった。

図－5 売上状況



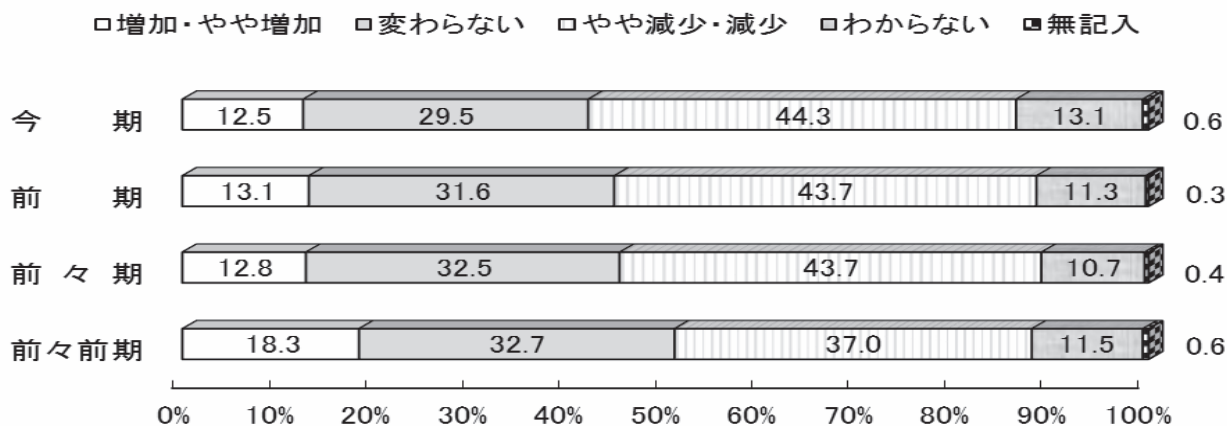
3. 今後の売上見通し（図－6参照）

全体では、「増加・やや増加」が12.5%（前回13.1%）、「やや減少・減少」が44.3%（前回43.7%）で、D I 値は△31.8（前回△30.6）となり、1.2ポイントの悪化となった。

業種別では、D I 値で小売業△47.9、卸売業△37.1、交通運輸業△31.9、飲食業△30.9、製造業△29.6、サービス業△27.8、その他の業種△26.0、建設業△22.5の順であった。

地区別のD I 値では、東紀州地区△46.5、伊賀地区△34.4、中勢地区△34.1、南勢地区△31.8、北勢地区△28.1であった。

図－6 売上見通し



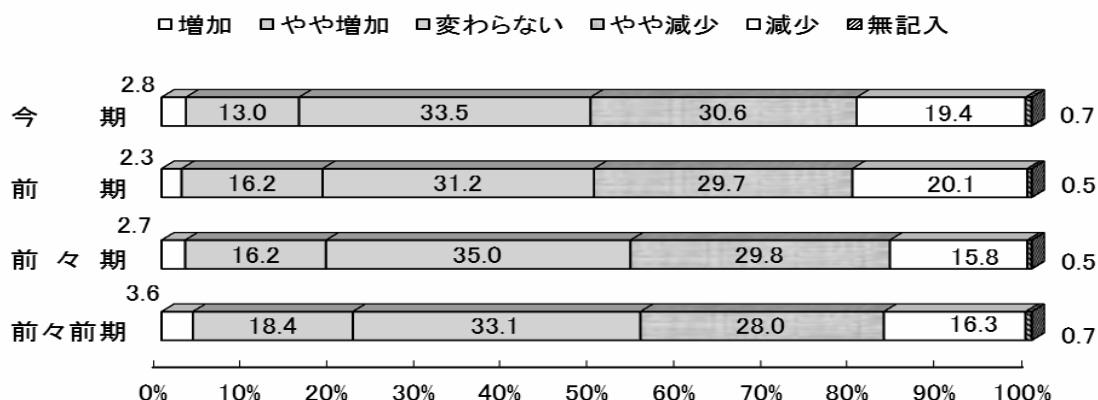
4. 利益状況 (図-7参照)

全体では、「増加・やや増加」15.8% (前回18.5%)、「やや減少・減少」が50.0% (前回49.8%) で、D I値は△34.2 (前回△31.3) となり、2.9ポイントの悪化となった。

業種別では、交通運輸業23.6ポイント、サービス業9.3ポイント、小売業で0.2ポイント改善が見られるが、それ以外の業種では悪化している。特に建設業は14.2ポイントと大きく悪化しており、飲食業8.4ポイント、卸売業6.2ポイント、製造業3.5ポイントとそれぞれ悪化している。

地区別のD I値では、北勢地区のみ△28.0(前回△29.1)と改善したが、それ例外の地区では、中勢地区△37.9、南勢地区△41.1、伊賀地区△33.7、東紀州地区△50.9と悪化した。

図-7 利益状況



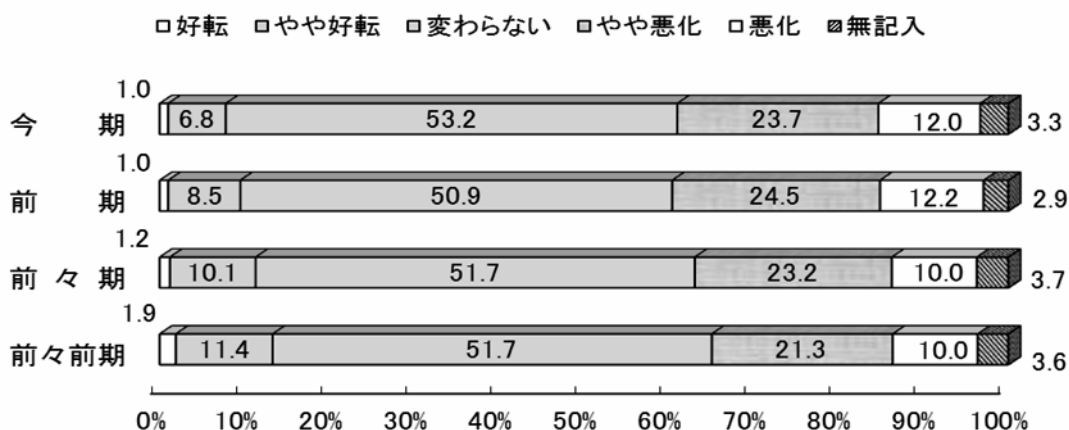
5. 販売条件 (図-8参照)

全体では、「好転」、「やや好転」が7.8% (前回9.5%)、「やや悪化」、「悪化」は35.7% (前回36.7%) で、D I値は△27.9 (前回△27.2) となり、0.7ポイント悪化となった。

業種別では、製造業1.5ポイント、卸売業3.0ポイント、飲食業1.5ポイント、サービス業7.2ポイントの改善が見られる一方で、それ以外の業種では悪化している。特にその他の業種では16.7ポイント悪化している。

地区別では北勢地区3.3ポイント、東紀州地区1.6ポイントの改善が見られたが、中勢地区6.0ポイント、南勢地区7.0ポイント、伊賀地区1.0ポイント悪化した。

図-8 販売条件



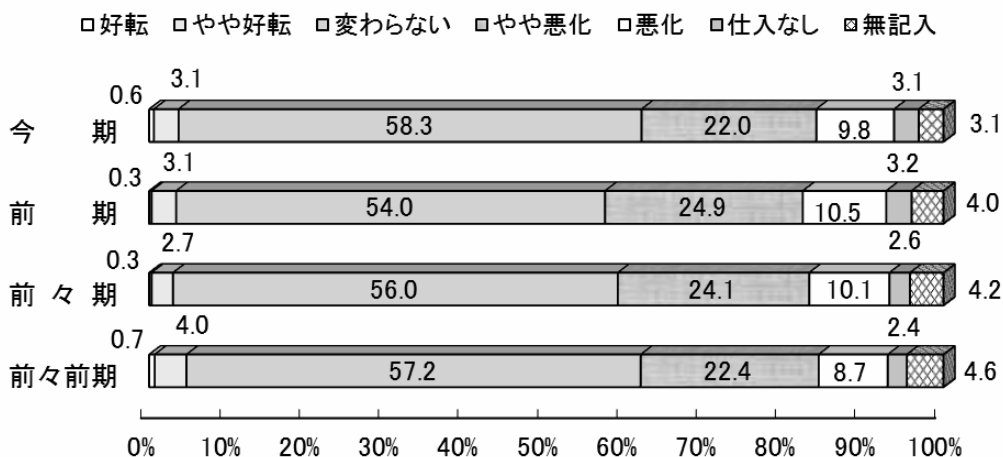
6. 仕入条件 (図-9参照)

全体では「好転」、「やや好転」が3.7% (前回3.4%)、「やや悪化」、「悪化」は31.8% (前回35.4%)で、D I値は△28.1 (前回△32.0) となり、3.9ポイント改善した。

業種別では、卸売業で8.8ポイントの悪化が見られたが、それ以外の業種では改善した。特に交通運輸業では16.4ポイントと大きく改善し、製造業では5.7ポイント、その他の業種では5.1ポイントの改善が見られた。

地区別のD I値では、伊賀地区のみ0.3ポイントの悪化が見られたが、それ以外の地区では、北勢地区6.6ポイント、南勢地区3.8ポイント、東紀州地区1.7ポイント、中勢地区0.8ポイント改善した。

図-9 仕入条件



7. 設備投資 (図-10・11参照)

全体では、設備投資を行った企業は330社、14.0% (前回16.5%)、設備投資を予定している企業は303社、12.9% (前回11.9%) とほぼ横ばいとなった。

業種別では、交通運輸業が25.0%と昨年に引き続き他の業種よりも多く設備投資を行った。卸売業が4.3%と最も低い数値であった。また、地区別では中勢地区が実績15.9%と最も高く、予定では北勢地区が13.8%と最も高くなっている。東紀州地区では実績7.0%、予定8.1%と、ともに最も低い値となっている。

図-10 設備投資の実績

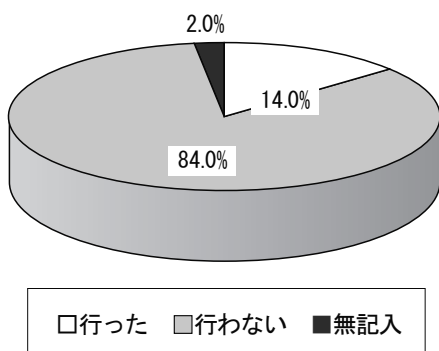
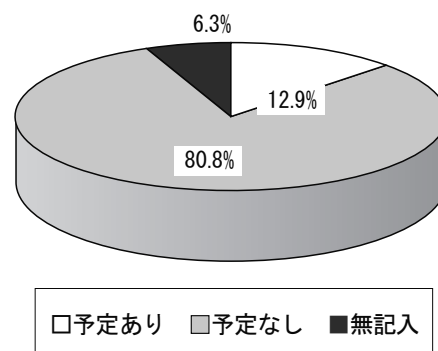


図-11 設備投資の予定



8. 資金繰り状況と今後の見通し

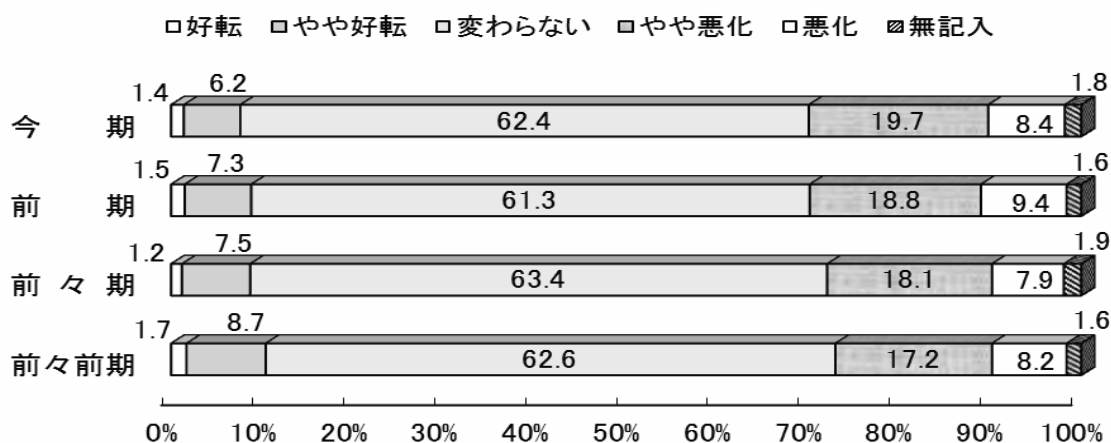
a) 現状 (図-12参照)

全体では「好転・やや好転」が7.6% (前回8.8%) に対し「悪化・やや悪化」は28.1% (前回28.2%) で、D I 値は△20.5 (前回△19.4) となり1.1ポイント悪化した。

業種別D I 値では、ほとんどの業種で悪化していた。特に交通運輸業では、△36.5 (前回△29.6) で6.9ポイント悪化した。

地区別D I 値では、北勢、伊賀地区が改善、南勢、中勢、東紀州地区が悪化した。

図-12 資金繰りの現状



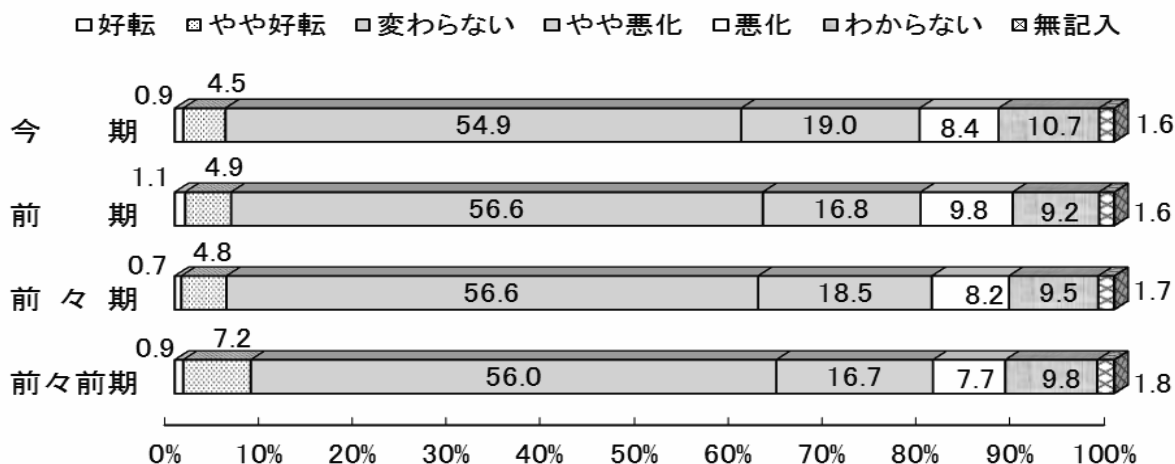
b) 見通し (図-13参照)

全体では「好転・やや好転」が5.4% (前回6.0%) に対し「悪化・やや悪化」は27.4% (前回26.6%) で、D I 値は△22.0 (前回△20.6) となり1.4ポイント悪化した。

業種別D I 値では、飲食業が△25.9 (前回△28.1)、サービス業が△18.4 (前回△18.8) とそれぞれ改善となったが、それ以外の業種では悪化となった。

地区別D I 値では、北勢地区のみで改善が見られ、そのほかの地区では悪化した。

図-13 資金繰りの見通し



9. 借入状況

a) 現状

回答企業 2,355 事業所のうち、借入を実施した企業は、926 事業所、39.4%（前回 944 社、42.5%）であった。

b) 借入の難易度（図-14・15参照）

全体では、借入を実施した企業のうち、「容易」が 14.3%（前回 16.2%）、「困難」は 15.7%（前回 12.8%）で、D I 値は△1.4（前回 3.4）となり、4.8 ポイント悪化した。

業種別 D I 値では、小売業でのみ改善が見られ、それ以外の業種では悪化した。また、地区別 D I 値では南勢、東紀州地区が改善、そのほかの地区では悪化した。

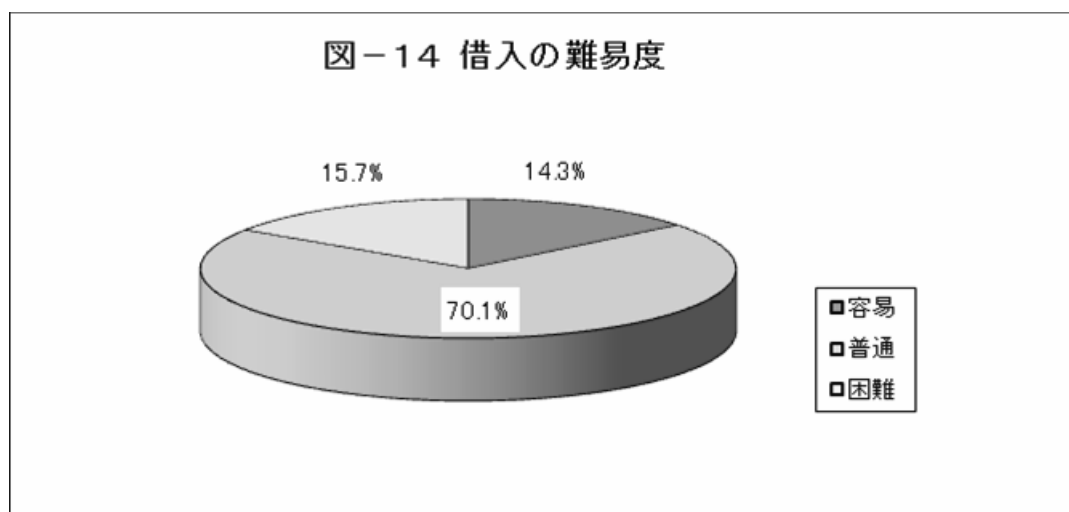
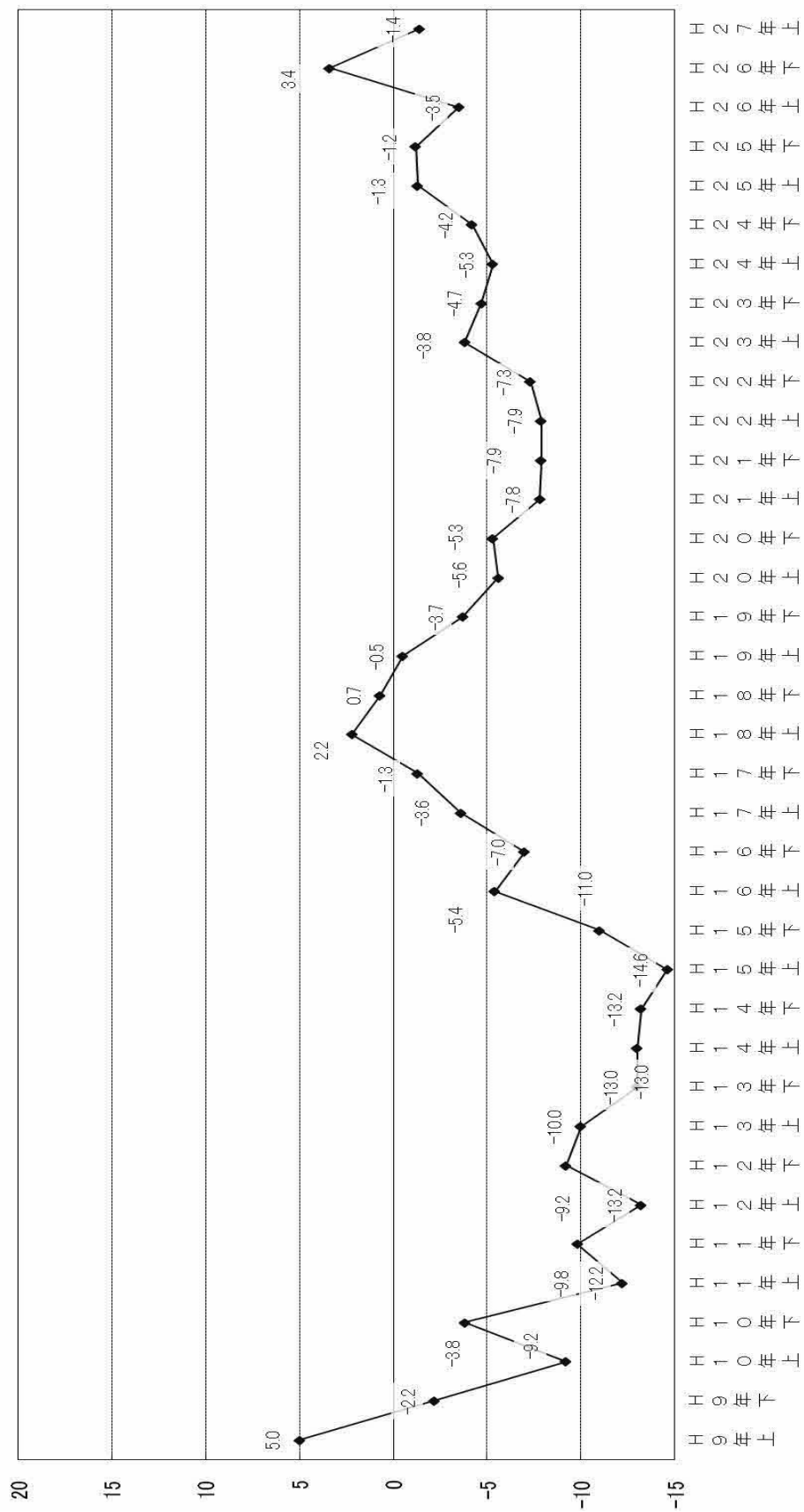


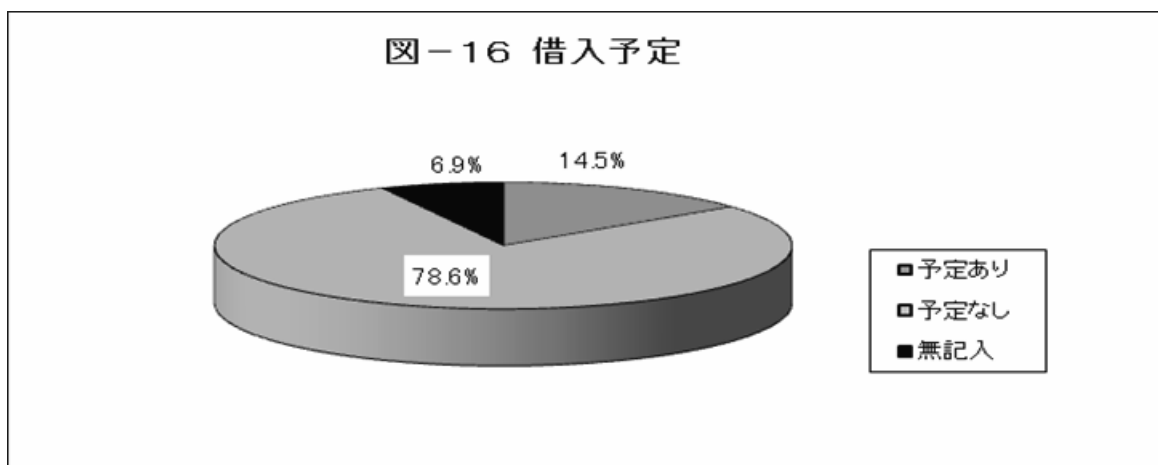
図-15 借入難易度DI値の推移



10. 借入予定（図－16参照）

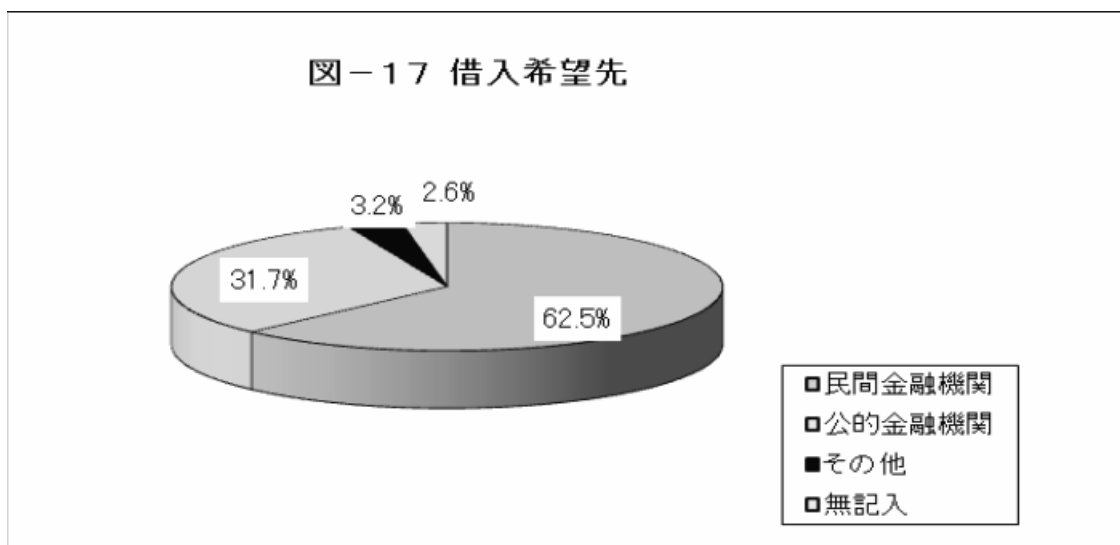
全体では、回答企業 2,355 事業所中、借入を予定している企業は 341 事業所、14.5%（前回 14.5%）であった。

業種別でみると借入を予定しているのは、交通運輸業が 29.5%と最も高く、飲食業が 7.9%と最も低かった。また地区別では、南勢地区が 16.7%と最も高く、中勢地区が 13.6%と最も低かった。



11. 借入希望先（図－17参照）

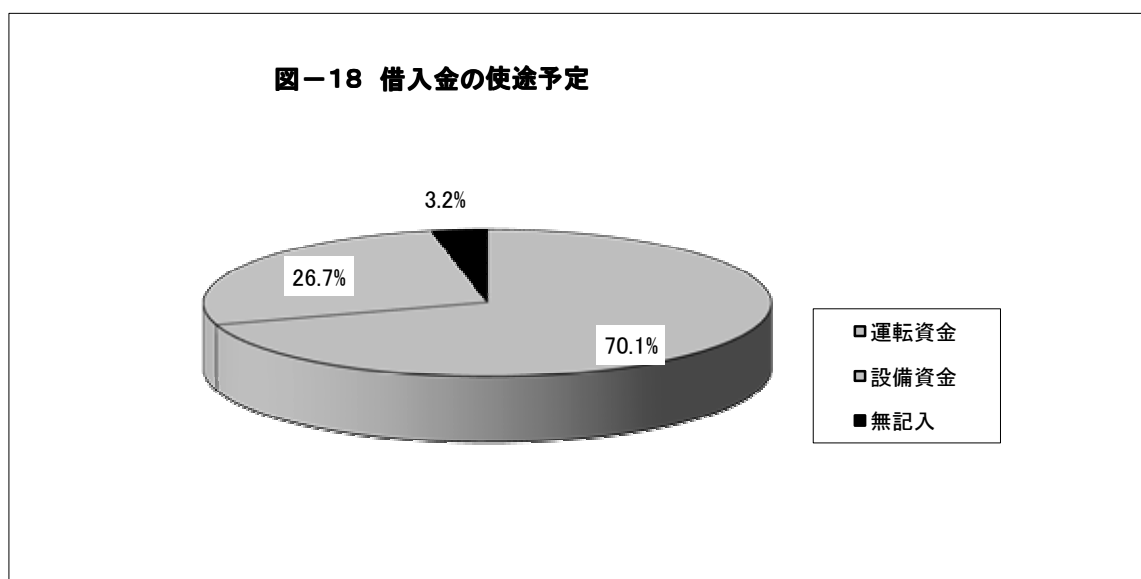
借入を予定している企業のうち、「民間金融機関」は 62.5%（前回 63.8%）、「公的金融機関」は 31.7%（前回 31.0%）となった。



12. 借入金の使途予定（図－18参照）

全体では、借入を予定している企業のうち、「運転資金」が70.1%（前回68.7%）に対し、「設備資金」は26.7%（前回29.1%）であった。

業種別では、「運転資金」で卸売業が92.0%、「設備資金」で飲食業が54.5%とそれぞれ最も高かった。



13. 経営上の問題点（表－1参照）

全体では、「売上・受注の停滞減少」50.0%（前回48.7%）、「競争激化」25.7%（前回25.9%）、「人材育成」18.6%（前回17.9%）の順となった。上位2項目は変わらなかった。

業種別では、昨年と同様に飲食業以外で「売上・受注の停滞減少」の回答が最も多く、飲食業では「原材料高及び不足」の回答が最も多かった。

業種別での2位の回答では、卸売業、小売業、サービス業、その他の業種で得られた「競争激化」が目立った。

3位の回答では、製造業、小売業、飲食業、サービス業で得られた「設備店舗の狭小老朽化」が目立った。

表－1 経営上の問題点(3項目以内複数回答)

区 分		第 1 位	第 2 位	第 3 位
業 種 別	製 造 業	売上・受注の停滞減少 (49.6)	原材料高及び不足 (25.9)	設備店舗の狭小老朽化 (22.8)
	建 設 業	売上・受注の停滞減少 (43.5)	人手不足 (31.1)	人材育成 (29.6)
	卸 売 業	売上・受注の停滞減少 (65.0)	競争激化 (37.9)	原材料高及び不足 (22.9)
	小 売 業	売上・受注の停滞減少 (65.5)	競争激化 (35.8)	設備店舗の狭小老朽化 (15.3)
	飲 食 業	原材料高及び不足 (46.8)	売上・受注の停滞減少 (38.8)	設備店舗の狭小老朽化 (30.2)
	サービス業	売上・受注の停滞減少 (40.4)	競争激化 (27.2)	設備店舗の狭小老朽化 (23.3)
	交通運輸業	売上・受注の停滞減少 (47.7)	人件費以外の経費増加 (29.5)	人手不足 (22.7)
	そ の 他	売上・受注の停滞減少 (45.2)	競争激化 (26.0)	人材育成 (17.8)
地 区 別	北 勢	売上・受注の停滞減少 (45.5)	競争激化 (26.0)	人材育成 (21.3)
	中 勢	売上・受注の停滞減少 (52.1)	競争激化 (27.4)	人材育成 (20.5)
	南 勢	売上・受注の停滞減少 (56.5)	競争激化 (23.0)	設備店舗の狭小老朽化 (22.1)
	伊 賀	売上・受注の停滞減少 (49.4)	競争激化 (30.7)	人件費以外の経費増加 (22.9)
	東 紀 州	売上・受注の停滞減少 (61.1)	原材料高及び不足 (23.8)	競争激化 (19.5)
総 合		売上・受注の停滞減少 (50.0)	競争激化 (25.7)	人材育成 (18.6)

県下商工会議所地域の景況

○桑名商工会議所地域

現 状

景気の現状は「良い・やや良い」が 18.7%（前回 19.5%）、「変わらない」が 35.8%（前回 33.5%）、「やや悪い・悪い」が 45.0%（前回 45.7%）となった。DI 値は△26.3（前回 △26.2）となり、前回調査時に比べ 0.1 ポイント悪化と、ほぼ横ばいという結果となった。

なお、今回は飲食業が△0.1（前回△23.1）と大きく数値が改善したほか、小売業が△45.3（前回△60.0）に改善するなど、個人消費者向けの業種で数値が改善する傾向であった。

一方で、製造業は△23.9（前回△13.5）、建設業は△17.6（前回△16.6）に悪化するなどしており、全体としては前回と同水準に留まった。

見 通 し

今後の見通しについては、「良い・やや良い」との回答が 16.0%、「変わらない」が 32.4%、「やや悪い・悪い」との回答は 39.4%、DI 値は△23.4（前回△29.1）となった。

現状のDI 値と比較すると、若干ながら業況の改善を見通している。

業種別に見ると飲食業が 6.2 とプラス水準への改善を見通すほか、建設業が△10.5 とマイナス水準が縮小する見通しである。他の業種も小幅ながらも改善を見通す業種が多くある。

目立った変化等

今回の調査では飲食業が大きく改善したものの、他業種を含めた全体のDI 値は前回とほぼ同様の値となっており、小規模企業の景気回復は進んでいない状況である。

経営上困っている問題について「売上・受注の停滞減少」の 47.7%（前回 47.8%）、「競争激化」の 23.8%（前回 25.7%）に続いて人手不足が 20.4%（前回 15.8%、5 番目）に上昇しており人材確保が課題になっている状況が窺える。

○四日市商工会議所地域

現 状

「良い・やや良い」が 23.2%（前回調査時は 18.1%）「変わらない」が 34.6%（前回調査時は 36.2%）、「やや悪い・悪い」が 41.9%（前回調査時は 44.5%）との結果となった。現状 DI 値は△18.7 で前回調査時の△26.4 より、7.7 ポイント上昇した。

業種別に前回調査時値と比較すると、小売業、交通運輸業以外のすべての業種で DI 値が上昇し、なかでも卸売業については前回から 35.0 ポイント、サービス業については前回から 27.6 ポイントと大幅に上昇した。

見 通 し

「良い・やや良い」が 18.7% 「変わらない」が 40.5%、「やや悪い・悪い」が 40.1%となり、DI 値は△21.4 で前回調査時の△26.8 より 5.4 ポイント上昇した。

業種別に前回調査時の見通し DI 値と比較すると、製造業、建設業、サービス業、その他の業種の DI 値が上昇した。特にサービス業については 25.5 ポイントと大幅に上昇した。

目立った変化等

全体の景況感をはじめ、売上、利益、販売条件、仕入条件についても、全ての DI 値が前回調査時と比べて上昇しており、景況感の改善が見られる。このような状況については、自由記述欄に記載のみられた「増税（による買い控え）の影響が落ち着いてきた」などの要因が考えられる。

経営上の問題点について見てみると、前回調査時に引き続き「売上・受注の停滞減少」（43.6%）、「競争激化」（28.4%）が上位を占め、「人手不足」（24.9%）が続いた。

現状 DI 値が大幅に上昇し、景況感は改善しているといえる卸売業、およびサービス業に関して、経営上の問題点について見てみると、卸売業では、「売上・受注の停滞減少（卸売業の 68.2%が回答）」、「競争激化（45.5%が回答）」の 2 項目が高い回答割合であった。サービス業でも「売上・受注の停滞減少」と、「競争激化」の回答割合がほかの選択肢と比べて非常に高かった。

このことから、卸売業やサービス業については、大幅に景況感は改善していながらも、前回調査に引き続き、売上・受注の不振と競争の激化が主な経営課題である。

一方、建設業では「人手不足（建設業の 40.5%が回答）」「人材育成（38.1%が回答）」の 2 項目の回答割合が他業種よりも目立って高く、製造業では「人材育成（建設業の 27.7%が回答）」の回答割合が他業種よりも高かった。このことから、建設業、製造業では人材の確保、育成が大きな経営課題である。

○鈴鹿商工会議所地域

現 状

対象 944 社 回答 350 社 回答率 37.08%。「良い・やや良い」と答えた企業が 19.7%（前回 22.9%：前年同期 23.4%）、「悪い・やや悪い」と答えた企業は 42.9%（前回 40.8%：前年同期 37.6%）となった。また、DI 値が△23.2（前回△17.9：前年同期△14.2）と前年同期より 9.0 ポイント悪化、前回より 5.3 ポイント悪化している。

業種別では、製造業 DI 値△16.9（前回△13.0：前年同期 5.4）、建設業 DI 値△9.4（前回 0：前年同期 0）、卸売業 DI 値△66.7（前回△57.2：前年同期△14.3）、小売業 DI 値△52.4（前回△48.9：前年同期△38.7）、飲食業 DI 値△25.9（前回△13.6：前年同期△47.9）、サービス業 DI 値△12.8（前回△36.4：前年同期△38.2）となった。

見 通 し

「良い・やや良い」と答えた企業が 12.6%（前回 11.1%：前年同期 15.1%）、「悪い・やや悪い」と答えた企業は 44.9%（前回 46.0%：前年同期 41.9%）となった。また、DI 値が△32.3（前回△34.9：前年同期△26.8）と前年同期より 5.5 ポイント悪化、前回より 2.6 ポイント改善している。

業種別では、製造業 DI 値△25.3（前回△27.3：前年同期△10.9）、建設業 DI 値△18.7（前回△26.8：前年同期△13.5）、卸業 DI 値△33.3（前回△57.1：前年同期△50.1）、小売業 DI 値△49.2（前回△58.1：前年同期△54.8）、飲食業 DI 値△55.5（前回△50.0：前年同期△39.1）、サービス業 DI 値△36.2（前回△39.3：前年同期△42.5）となった。

売 上

「増加・やや増加」と答えた企業が 20.5%（前回 26.0%：前年同期 26.3%）、「減少・やや減少」と答えた企業は 48.9%（前回 44.3%：前年同期 39.6%）となった。また、DI 値が△28.4（前回△18.3：前年同期△13.3）と前年同期より 15.1 ポイント悪化、前回より 10.1 ポイント悪化している。

利 益

「増加・やや増加」と答えた企業が 15.7%（前回 20.7%：前年同期 22.8%）、「減少・やや減少」と答えた企業は 47.1%（前回 47.1%：前年同期 41.3%）となった。また、DI 値が△31.4（前回△26.4：前年同期△18.5）と前年同期より 12.9 ポイント悪化、前回より 5.0 ポイント悪化している。

目立った変化等

全体の DI 値において、現状・売上・利益の項目で、前回調査時よりも悪化を示した。ただ、現状の見通しでは、2.6 ポイント改善した。業種別で見るとサービス業において、現状の DI 値が 23.6 ポイント改善しているが、それ以外の業種では現状の DI 値が全て悪化となった。

全体の DI 値が悪化した要因としては、政府が推進している景気浮揚策の好影響が大企業に限定され、地方の中小企業・小規模事業者まで影響が認められず、消費税増税前の駆け込み需要の反動が多少残っている。また、今年の 2 月初めから大手企業の製造工場において減産を開始したことが影響を及ぼし始めていると推察される。現在の生産量を昨年 7 月と比較すると約 26.6%減となっている。今後、鈴鹿市全体に影響を及ぼしていくと考えられる。

サービス業の現状 DI 値が回復したことについて、前回調査時に「良い・やや良い」と回答した事業者が 15.2%で、「悪い・やや悪い」と回答した事業者が 51.6%であった。今回の調査では、「良い・やや良い」と回答した事業者が 17.0%で、「悪い・やや悪い」と回答した事業者が 29.8%で、「変わらない」と回答した事業者が 53.2%で「悪い・やや悪い」の割合が減少し、「変わらない」の割合が増加したことによらものと推察される。このことからサービス業の景気悪化は一旦止まったと考えられる。

○亀山商工会議所地域

現 状

全体では、「良い・やや良い」が 15.9% (前年同期 22.3%)、「やや悪い・悪い」が 41.6% (前年同期 45.5%) となり、DI 値は $\Delta 25.7$ で、前年同期 $\Delta 23.2$ より 2.5 ポイント悪化しており、前期 $\Delta 22.5$ よりも 3.2 ポイント悪化しているという結果となった。

業種別では前回 DI 値と比較して、製造業・建設業・卸売業・サービス業で悪化が見られたが、小売業・交通運輸業で改善が見られた。中でも交通運輸業は前回 DI 値 $\Delta 37.5$ から 16.6 へと大幅に改善している。

見 通 し

全体では、「良い・やや良い」が 8.9% (前年同期 17.8%)、「やや悪い・悪い」が 41.5% (前年同期 40.0%) となり、DI 値は $\Delta 32.6$ で、前年同期 $\Delta 22.2$ より 10.4 ポイント大幅に悪化した。

業種別に見てみると、製造業・建設業で悪化の見込という結果が出ているが、現状同様、交通運輸業では今期に続き来期も明るい見通しとの結果となった。

目立った変化等

製造業における現状の悪化が目立ち、中でもこれまで 3 期連続で改善傾向にあった金属製品製造が今期大きく悪化に転じた。建設業では土木工事は改善傾向にあるが、建築工事は 3 期連続の悪化となっており、今後も注視していきたい点であった。

経営上困っている問題については、全業種の総合計で「人件費以外の経費の増加」の値が前回の半分の値となり、各事業所が努力していることが推察される結果となった。

○津商工会議所地域

現 状

「良い・やや良い」が 11.9% (前回 23.0% : 前年同期 27.1%)、「やや悪い・悪い」が 45.1% (前回 39.3% : 前年同期 34.6%)、DI 値が $\Delta 33.2$ (前回 $\Delta 16.3$: 前年同期 $\Delta 7.5$) と前回より 16.9 ポイントマイナス幅が増加する結果となった。

業種別では前回 DI 値と比較して小売業で横ばいの他、全ての業種で悪化が見られた。中でも建設業は前回 DI 値の $\Delta 8.8$ から今回 DI 値の $\Delta 37.5$ への大幅な悪化であり、卸売業では前回 DI 値 $\Delta 20.0$ から今回 DI 値 $\Delta 55.5$ への悪化が見られた。

見 通 し

「良い・やや良い」が 12.5% (前回 14.7% : 前年同期 12.2%)、「やや悪い・悪い」が 42.0% (前回 41.5% : 前年同期 42.0%)、DI 値は $\Delta 29.5$ (前回 $\Delta 26.8$: 前年同期 $\Delta 29.8$) と前回より 2.7 ポイントマイナス幅が増加する見通しとなっている。業種別では小売業で悪化の見通しで、その他の業種では明るい見通しを示しており、建設業と卸売業では改善の兆しである。

目立った変化等

経営上の問題点としては、「売上・受注の停滞減少」が最も多く 50.8% となった。次いで

「競争激化」30.6%、「人手不足」23.8%となった。「人手不足」は、前回20.2%と前々回20.2%と高い数値で横ばいが続いており、人材確保での課題が表面化していることが伺える。

業種別に見ると、「原材料高及び不足」は製造業においては29.7%、小売業においては35.0%であり全業種平均の19.2%と比較して高い割合を示している。また、建設業では「人手不足」は42.2%であり、前回35.1%よりも増加しており、全業種平均の23.8%と比較しても高い割合を示している。

○松阪商工会議所地域

現 状

全体では「良い・やや良い」が11.7%（前回19.4%）、「やや悪い・悪い」が49.9%（前回45.4%）となり、DI値は△38.2（前回△26.0）で前回に比べ12.2ポイント悪化している。

業種別では、卸売業、交通運輸業が改善したが、それ以外の業種は悪化した。

見 通 し

全体では「良い・やや良い」が11.6%（前回11.8%）、「やや悪い・悪い」が40.2%（前回38.3%）となり、DI値は△28.6（前回△26.5）で前回に比べ2.1ポイント悪化の見通しとなっている。

業種別では、卸売業、飲食業、その他の業種を除く全ての業種で悪化の見通しとなっている。

目立った変化等

経営上困っている問題点として、1位は「売上・受注の停滞減少」が52.8%で最も多く、2位は「競争激化」25.7%、3位は「人材育成」19.2%という結果となった。

○伊勢商工会議所地域

現 状

全体では「良い・やや良い」が8.9%（前回18.8%）、「やや悪い・悪い」が53.1%（前回46.6%）、DI値△44.2（前回△27.8）と前回に比べ16.4ポイント悪化している。

業種別では、前回に比べ飲食業で59.6ポイントと大きく悪化しているが、卸売業は21.4ポイント、サービス業は、14.8ポイントと改善している。

見 通 し

全体では「良い・やや良い」が8.8%（前回15.1%）、「やや悪い・悪い」が43.1%（前回43.4%）、DI値△34.3（前回△28.3）と前回より6.0ポイント悪化している。

業種別では、小売業で8.5ポイント、飲食業で6.7ポイント、製造業で5.6ポイントと悪化の見通しであるが、その他の業種で改善の見通しである。

目立った変化等

経営上の問題点として、全体では前回に引き続き、「売上・受注の停滞減少」が63.5%と最も多く、次いで「競争激化」27.1%、「原材料高及び不足」22.1%の順となっている。

業種別では、飲食業を除く全ての業種で「売上・受注の停滞減少」が第1位となっている。その他で目立った項目として、飲食業で「設備店舗の狭小老朽化」、「原材料高及び不足」が1位、建設業では「人材不足」が例年上位の問題点となっている。

○鳥羽商工会議所地域

現 状

全体では「良い」・「やや良い」があわせて22.8%、「やや悪い」・「悪い」があわせて49.2%、DI値△26.4（前期△53.4）と前期よりも27.0ポイントと改善している。業種別では飲食業を除く業種が改善しており、特に製造業では33.3（前期△17.1）と51.0ポイントの大幅な改善となった。

見 通 し

今後の見通しについては、「良い」・「やや良い」との回答は8.9%、「やや悪い」・「悪い」の回答については34.5%。DI値は△25.6（前期△59.3）で、前期より33.7ポイント改善の見通しとなった。業種別でもすべての業種で改善する見通しとなった。

最近の売上状況については全体では全体では「増加」・「やや増加」が25.7%、「やや減少」・「減少」が50.0%、DI値△24.3（前期△53.5）となっている。

見通しについては全体では「増加」・「やや増加」が10.3%、「やや減少」・「減少」が33.9%、DI値△23.6（前期△48.8）と25.2ポイント改善する見通し。

目立った変化等

経営上困っている問題では、上位に「売上・受注の停滞減少」、「設備店舗の狭小老朽化」、「原材料高及び不足」が占めている。

○上野商工会議所地域

現 状

全体では、「良い・やや良い」が21.3%（前回26.0%）、「やや悪い・悪い」が44.2%（前回45.5%）、DI値が△22.9（前回△19.5）で、前回に比べ3.4ポイント悪化している。

業種別に見ると、卸売業、小売業、サービス業では数値が改善する一方で、製造業、建設業で前回値を下回る結果となった。

見 通 し

全体では、「良い・やや良い」が13.1%（前回11.7%）、「やや悪い・悪い」が45.9%（前回49.4%）で、DI値は△32.8（前回△37.7）となり4.9ポイントの改善の見通しとなった。

業種別では、製造業、小売業、サービス業で改善の見通しとなったが、建設業、卸売業では悪化の見通しとなった。

目立った変化等

経営上困っている問題点としては、「売上・受注の停滞減少」が50.8%と最も多く、続いて2位が「その他経費増」(27.9%)、3位が「競争激化」(26.2%)という結果になっている。上位3項目は例年通り高い割合であった。これらに続いて問題点として挙げたのが「原材料高・不足」(24.6%)で、前回と比較して4.0%の増加となった。

○名張商工会議所地域

現 状

全体では「良い・やや良い」が10.5%、「やや悪い・悪い」が49.5%で、DI値は△39.0(前回△33.7)となり、前回より5.3ポイント悪化した。

業種別に見ても、特に改善している業種は見られなかった。

見 通 し

全体では「良い・やや良い」が6.7%、「やや悪い・悪い」が47.2%で、DI値は△35.2(前回△37.6)となり、前回より2.4ポイント好転という見通しとなった。特に製造業は9.3ポイント、建設業は6.1ポイント改善された。

目立った変化等

現状DI値、見通しDI値などほとんどのDI値が前回より悪化しており、小規模事業所にとってはかなり経営的に厳しい様子がみられた。反対にDI値が改善したのは、売上の見通し(11.9ポイント)と今後の見通し(2.4ポイント)で、業種別に見ると特に建設業と卸売業の事業所が将来に対して明るい兆しを抱いている傾向にある。

経営上困っている問題として「売上・受注の停滞減少」が48.6%(前回49.0%)で最も多く、次いで「競争激化」が33.3%(前回29.8%)で2位、「人材育成」が26.7%で3位、「人件費以外の経費増加」が20.0%で4位、5位は「設備・店舗の狭小老朽化」で14.3%となった。

○尾鷲商工会議所地域

現 状

全体では、「良い・やや良い」が7.2%、「変わらない」が34.9%、「やや悪い・悪い」が57.9%、DI値は△50.7(前回△50.4)と前回より0.3ポイント悪化している。

見 通 し

今後の見通しについては、「良い・やや良い」との回答が5.6%、「変わらない」が28.6%、「やや悪い・悪い」との回答は48.4%、DI値は△42.8(前回△50.5)となり、前回のDI値と比べて7.7ポイント改善している。

目立った変化等

経営上困っている問題点については、「売上・受注の停滞減少」との答えが前回よりも1.4%増加し、60.5%と相変わらず最も多かった。

次いで、「原材料高及び不足」24.6%「競争激化」19.8%の順であった。

その他目立った変化として業種別 DI 値では、「木材・木製品製造」が△77.8（前回△44.4）と 33.4 ポイント悪化している。

見通しにおいても「やや悪い・悪い」との回答が多くあり、背景には販売価格低下、販売需要の不振が窺える。

小売業では交通網整備による顧客流出に改善の見通しが立たない状況である。

○熊野商工会議所

現 状

「良い・やや良い」が 5.1%（前回 25.0%）、「悪い・やや悪い」が 59.3%（前回 57.1%）と 26 年度下期にくらべ「良い・やや良い」が大幅に悪化、「悪い・やや悪い」も若干ではあるが悪化傾向にある。

DI 値は△54.2（前回△32.1）となり、大幅に悪化した。

見 通 し

「良い・やや良い」が 3.4%（前回 12.5%）、「悪い・やや悪い」が 42.3%（前回 44.7%）と 26 年度下期にくらべ「良い・やや良い」が悪化、「悪い・やや悪い」は若干ではあるが改善傾向となった。

DI 値も△38.9（前回△32.2）と悪化した。

目立った変化等

今回の調査では、現状の「良い・やや良い」が大幅に悪化、「悪い・やや悪い」の回答も悪化しており、全体的にみると 26 年度下期にくらべ悪化している。

見通しでは、「良い・やや良いが」悪化、「悪い・やや悪い」若干改善したが、「良い」の回答がなく現状同様全体的にみると悪化していると思われる。

DI 値も現状、見通し共に悪化となった。

景況調査票

平成27年7月

会議所	No.	コード

※各設問に対して該当するものに○をして下さい。

I. 企業の概要

1. 業種 (主たるもの1つ)

〈製造業〉	1. 食料品	2. 繊維品	3. 機械製品	4. 金属製品	5. 木材木製品
	6. 化学製品	7. 土石窯業	8. 印刷・出版	9. その他	
〈建設業〉	10. 土木工事	11. 建築工事	12. その他		
〈卸売業〉	13. 食料品	14. 繊維・身の回り品	15. その他		
〈小売業〉	16. 繊維・身の回り品	17. 食料品	18. 家具・日用品	19. 電気製品	20. その他
〈飲食業〉	21. 飲食店				
〈サービス業〉	22. 美容・理容	23. ホテル・旅館	24. 自動車整備	26. 不動産	26. その他
〈交通運輸業〉	27. 交通運輸	〈その他〉	28. その他		

2. 常時従業員数(会社の役員・家族従業員・パートを除く)

1. 0 ~ 5人	2. 6 ~ 20人	3. 21 ~ 50人	4. 51 ~ 100人	5. 101人以上
-----------	------------	-------------	--------------	-----------

II. 企業の経営状況について

3. 現状について…平成27年1～6月の業況は前年同期に比べてどうでしたか。

1. 良	い	2. やや良	い	3. 変わらない	4. やや悪い	い	5. 悪	い
------	---	--------	---	----------	---------	---	------	---

理由:

4. 今後の見通しについて…平成27年7～12月の業況は前年同期に比べてどうなると思いますが。

1. 良	い	2. やや良	い	3. 変わらない	4. やや悪い	い	5. 悪	い	6. わからない
------	---	--------	---	----------	---------	---	------	---	----------

理由:

5. 売上状況について…平成27年1～6月の売上は前年同期に比べてどうでしたか。

1. 増	加	2. やや増	加	3. 変わらない	4. やや減	少	5. 減	少
------	---	--------	---	----------	--------	---	------	---

6. 売上の見通しについて…平成27年7～12月の売上は前年同期に比べてどうなると思いますが。

1. 増	加	2. やや増	加	3. 変わらない	4. やや減	少	5. 減	少	6. わからない
------	---	--------	---	----------	--------	---	------	---	----------

7. 利益状況について…平成27年1～6月の利益は前年同期に比べてどうでしたか。

1. 増	加	2. やや増	加	3. 変わらない	4. やや減	少	5. 減	少
------	---	--------	---	----------	--------	---	------	---

8. 販売状況(単価・決済方法)について…平成27年1～6月は前年同期に比べてどうでしたか。

1. 好	転	2. やや好	転	3. 変わらない	4. やや悪	化	5. 悪	化
------	---	--------	---	----------	--------	---	------	---

9. 仕入条件(単価・決済方法)について…平成27年1～6月は前年同期に比べてどうでしたか。

1. 好	転	2. やや好	転	3. 変わらない	4. やや悪	化	5. 悪	化	6. 仕入なし
------	---	--------	---	----------	--------	---	------	---	---------

10. 設備投資について

27年1～6月の実績		27年7～12月の予定	
1. 行った	2. 行わない	1. 予定あり	2. 予定なし

11. 資金繰りの現状について…平成27年1～6月は前年同期に比べてどうでしたか。

1. 好	転	2. やや好	転	3. 変わらない	4. やや悪	化	5. 悪	化
------	---	--------	---	----------	--------	---	------	---

12. 資金繰りの見通しについて…平成27年7～12月は前年同期に比べてどうなると思いますが。

1. 好	転	2. やや好	転	3. 変わらない	4. やや悪	化	5. 悪	化	6. わからない
------	---	--------	---	----------	--------	---	------	---	----------

13. 借入の現状について…平成27年1～6月はどうでしたか。(借入された方のみ)

1. 容易	2. 普通	3. 困難
-------	-------	-------

14. 借入予定はありますか…(平成27年7～12月)

1. 予定している	2. 予定していない
-----------	------------

14-1. 借入先は、どこを希望されますか。(主たるもの一つ)

1. 民間金融機関	2. 公的金融機関	3. その他
-----------	-----------	--------

14-2. 資金使途は何を予定されていますか。(主たるもの一つ)

1. 運転資金	2. 設備資金
---------	---------

15. 現在経営上で、困っている問題点は何ですか。あれば3つ以内で選んでください。

1. 売上・受注の停滞減少	6. 設備・店舗の狭小老朽化	11. 競争激化
2. 製品・商品単価の下落	7. 売掛・債権回収の悪化	12. 人材育成
3. 人手不足	8. 人件費の増加	13. 立地条件の悪化
4. 週割人員	9. 人件費以外の経費の増加	14. 法的規制等(緩和を含む)
5. 借入難	10. 原材料高及び不足	15. 税務・経理問題

16. その他困っている問題・ご意見等があればご記入下さい。

ご協力ありがとうございます。